

まえがき

今年度は、昨年度まで3年間続けたやり方を改め、質問項目を大幅に改訂するとともに、前期と後期の両方でアンケートを実施することにいたしました。ここに、前期のアンケート結果をご報告いたします。先生方には、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成いただき、ありがとうございました。

今回は、他大学の例を参考にしつつ、学生が理解しやすく答えやすい質問項目の作成を心がけました。また、これまでもあった授業への満足度を尋ねる項目だけでなく、授業から受けた影響や学習の達成感に関する項目を設けました。さらに、自由記述欄で、授業で得られた知識や技能、授業で満足できた点を具体的に述べるよう求めました。これらの改訂によって学生の授業に対する評価が具体的にわかり、授業改善により役立つことを期待しています

FD委員会では、これまでと同様に学科別などの集計や分析を行いました。また、昨年度の報告書で行った図表の表示や文書の書式の統一を踏襲し、読みやすい報告書の作成に努めました。それらにつきましては、次ページ以降の学部・部門別の分析をご覧ください。

なお、12月には後期科目に対するアンケートを実施する予定ですので、その際もよろしくご協力くださいますようお願いいたします。

2014年10月3日

相愛大学FD委員会

江草浩幸

中村圭爾

益田圭

砂田和道

呉谷充利

庄條愛子

藤永慎一

土井純三

谷川由紀

表1 人文学部の平均評定値

| | | 人文学部 |
|-----|--|------|
| 問1 | あなたはこの授業に休まず出席しましたか | 3.31 |
| 問2 | あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか | 3.32 |
| 問3 | あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか | 2.87 |
| 問4 | 担当教員の話し方はわかりやすかったですか | 3.40 |
| 問5 | 担当教員は授業時間を守っていましたか | 3.59 |
| 問6 | 担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか | 3.48 |
| 問7 | 担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか | 3.47 |
| 問8 | 担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか | 3.37 |
| 問9 | 板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか | 3.42 |
| 問10 | この授業の内容の量やスピードは適切でしたか | 3.44 |
| 問11 | この授業の内容は理解しやすかったですか | 3.33 |
| 問12 | この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか | 3.29 |
| 問13 | この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか | 3.30 |
| 問14 | この授業を受講して満足できましたか | 3.40 |
| 平均値 | | 3.36 |

(文責 呉谷 充利)

授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

1. 評価の特徴

人間発達学部は資格に関連する講義が多く、授業評価アンケートの対象となった講義の多くも資格取得に関連したものであった。そのため、問1「休まずに出席したか」、問2「学習目標の理解の有無」に関する質問では、両学科とも評価点が高かった。一方で、資格関連の講義であるにも関わらず、問3「予習・復習、時間外学習の有無」の評価点は非常に低く、今後は宿題・課題による学習内容の反復と定着を促す必要があると考えられる(表1および図1)。

担当教員の授業に対する姿勢を問う問4～8までの項目は、アンケートの対象の講義によりばらつきが大きく、日頃から学生との接点が多い専任教員においては、若干高くなる傾向がみられた(表1および図2、図2-2)。また、これらの項目については、「講義時間ごとに学習目標を明示してほしい」など自由記述欄への学生の希望や記載が多く見られた。

講義の実施状況や理解を問う問9～11までの項目は、全学の平均値と大きな差は認められず、人間発達学部における視覚教材の活用や講義のスピードは、適切であると考えられた(表1および図3)。その反面、「パワーポイント、プリントの字が小さい」、「パワーポイントの進め方が早い」などの意見が自由記述欄に挙げられたことから、視覚教材の活用時には工夫も必要であることが考察された。

講義内容の理解および受講による学修効果を問う問12～14までの項目においても、全学の平均値と大きな差は認められなかった(表1および図4)。しかし、授業評価アンケートに対象の多くが資格取得に関連することを考えると、問12「受講講座のテーマに関する問題意識や関心の高まり」、問13「新しい知識・考え方・技能の習得」については、評価点を高める努力が必要と考えられる。

2. 自由記述の特徴

自由記述欄では「楽しい」「良かった」という意見が最も多かったが、講義における教員の態度についても、たくさんの意見が記載されていた。また「スライド、パワーポイントの進行が速すぎる」「板書やスライド、プリントの字が小さく見えにくい」など学習意欲に関連する重要な意見も多く、改善が必要と考えられた。これらの意見は教員から気付くことが難しい反面、早急に改善可能な内容である。そのため、これらの意見を把握できる点においても、授業評価アンケートは非常に有効と考えられる。

また、非常勤教員の授業評価アンケートでは、感謝の言葉や講義を通して学んだ内容についても記載されており、注意や評価だけでなく講義や教員に対する学生の思いを伝える手段としても有効であると考えられた。

表1 人間発達学部および全学平均の推定値

| | | 子ども発達学科 | 発達栄養学科 | 全学平均 |
|-----|--|---------|--------|------|
| 問1 | あなたはこの授業に休まず出席しましたか | 3.44 | 3.64 | 3.54 |
| 問2 | あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか | 3.39 | 3.35 | 3.37 |
| 問3 | あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか | 2.75 | 2.81 | 2.78 |
| 問4 | 担当教員の話し方はわかりやすかったですか | 3.34 | 3.21 | 3.28 |
| 問5 | 担当教員は授業時間を守っていましたか | 3.56 | 3.64 | 3.60 |
| 問6 | 担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか | 3.43 | 3.42 | 3.42 |
| 問7 | 担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか | 3.43 | 3.42 | 3.42 |
| 問8 | 担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか | 3.38 | 3.41 | 3.39 |
| 問9 | 板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか | 3.45 | 3.47 | 3.46 |
| 問10 | この授業の内容の量やスピードは適切でしたか | 3.41 | 3.29 | 3.35 |
| 問11 | この授業の内容は理解しやすかったですか | 3.34 | 3.18 | 3.26 |
| 問12 | この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか | 3.35 | 3.21 | 3.28 |
| 問13 | この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか | 3.37 | 3.26 | 3.31 |
| 問14 | この授業を受講して満足できましたか | 3.42 | 3.28 | 3.35 |
| 平均値 | | 3.36 | 3.33 | 3.34 |

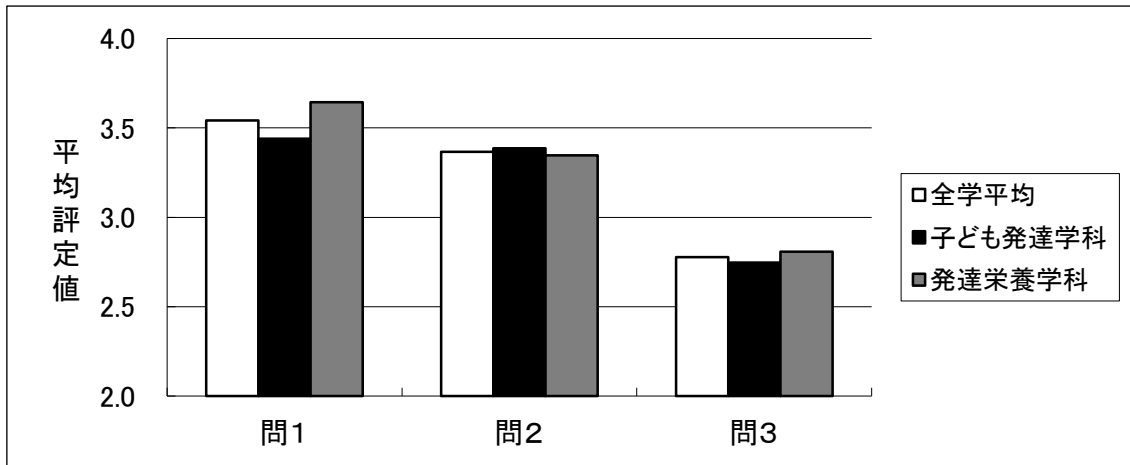


図1 全学および人間発達学部の間1～3の平均評定値

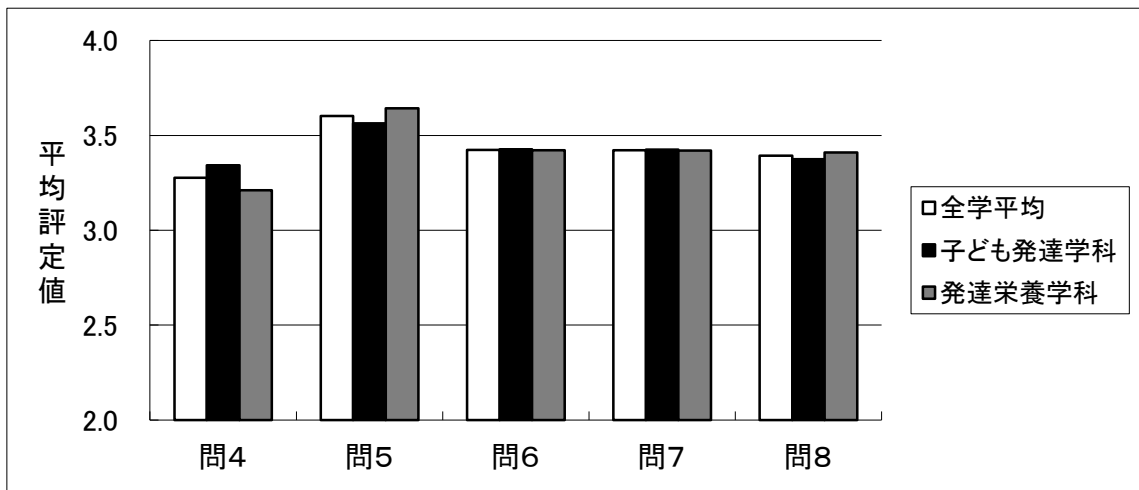


図2 全学および人間発達学部の間4～8の平均評定値

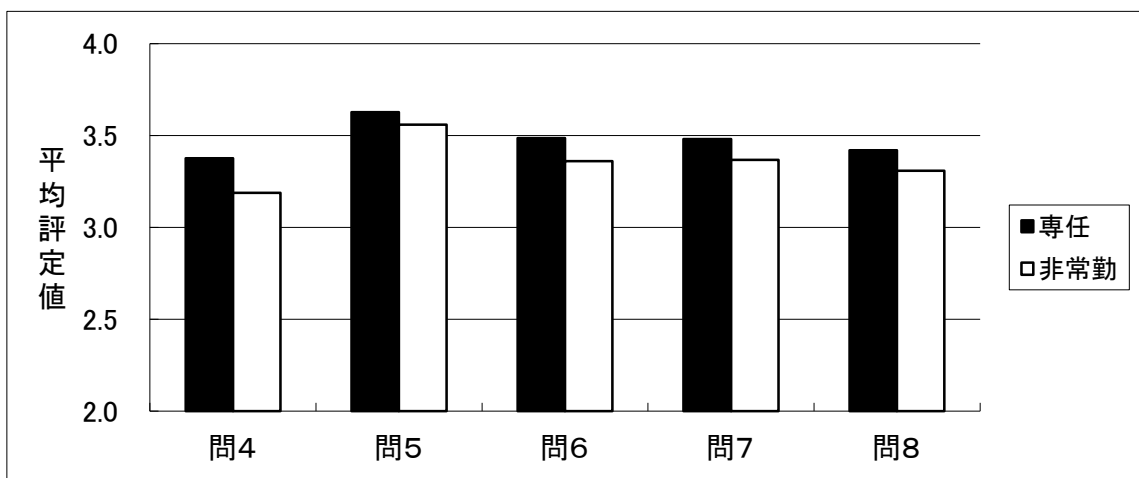


図2-2 人間発達学部専任教員および非常勤教員での間4～8の平均評定値

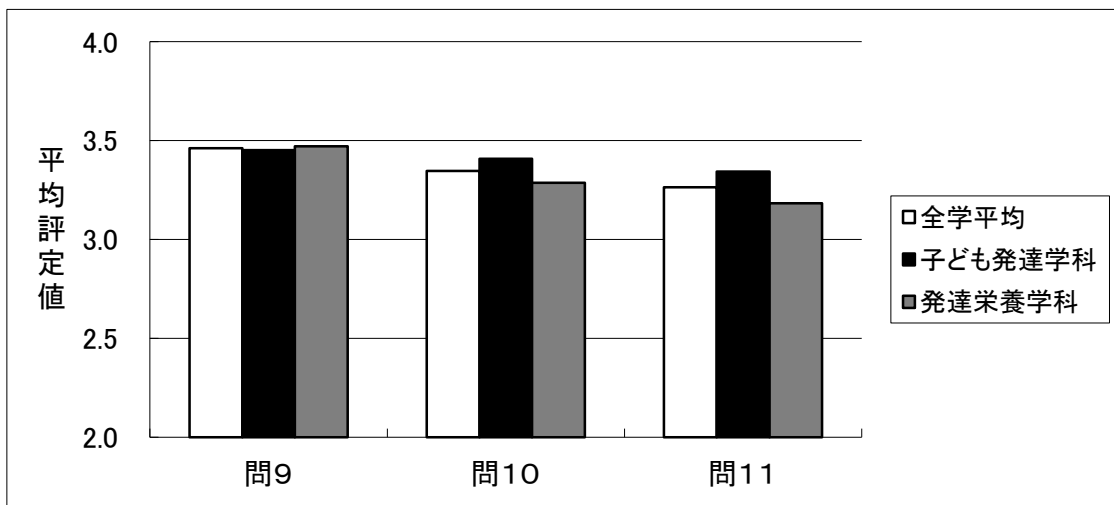


図3 全学および人間発達学部の間9～11の平均評定値

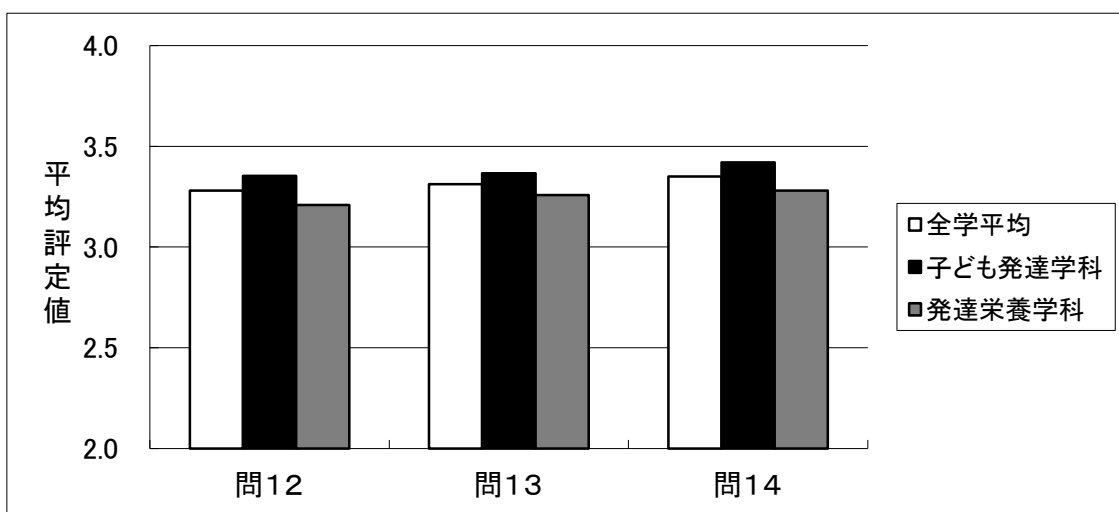


図4 全学および人間発達学部の間12～14の平均評定値

(文責 庄條 愛子)

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

| | 基礎・共通 | 資格 | 留学生 | 音楽学科 | 音楽マネジメント学科 | 人文学科 | 子ども発達学科 | 発達栄養学科 |
|-----|-------|------|------|------|------------|------|---------|--------|
| 問1 | 3.27 | 3.53 | 3.75 | 3.31 | 3.21 | 3.31 | 3.44 | 3.64 |
| 問2 | 3.15 | 3.48 | 3.81 | 3.36 | 3.21 | 3.32 | 3.39 | 3.35 |
| 問3 | 2.55 | 3.02 | 3.40 | 2.53 | 2.53 | 2.87 | 2.75 | 2.81 |
| 問4 | 3.24 | 3.40 | 3.89 | 3.39 | 3.31 | 3.40 | 3.34 | 3.21 |
| 問5 | 3.61 | 3.65 | 3.89 | 3.65 | 3.63 | 3.59 | 3.56 | 3.64 |
| 問6 | 3.35 | 3.58 | 3.89 | 3.52 | 3.33 | 3.48 | 3.43 | 3.42 |
| 問7 | 3.40 | 3.50 | 3.85 | 3.45 | 3.46 | 3.47 | 3.43 | 3.42 |
| 問8 | 3.37 | 3.42 | 3.79 | 3.34 | 3.07 | 3.37 | 3.38 | 3.41 |
| 問9 | 3.31 | 3.32 | 3.75 | 3.56 | 3.56 | 3.42 | 3.45 | 3.47 |
| 問10 | 3.33 | 3.40 | 3.72 | 3.49 | 3.35 | 3.44 | 3.41 | 3.29 |
| 問11 | 3.16 | 3.34 | 3.70 | 3.35 | 3.28 | 3.33 | 3.34 | 3.18 |
| 問12 | 3.09 | 3.38 | 3.63 | 3.38 | 3.26 | 3.29 | 3.35 | 3.21 |
| 問13 | 3.16 | 3.45 | 3.68 | 3.43 | 3.27 | 3.30 | 3.37 | 3.26 |
| 問14 | 3.21 | 3.41 | 3.74 | 3.43 | 3.34 | 3.40 | 3.42 | 3.28 |
| 平均値 | 3.23 | 3.42 | 3.75 | 3.37 | 3.27 | 3.36 | 3.36 | 3.33 |

授業アンケート結果の分析（基礎・共通および資格関係）

1. 評価の特徴

各質問項目に対する平均評定値を科目群別に図1に示す。

【基礎・共通科目】 まず目立つのは質問3（時間外学習の有無）に対する評価値の低さ（2.55）である。これは他のグループにも共通した特徴であるが、基礎・共通科目は特に低い（8グループ中7番目）。語学や演習系の科目は別にして、大人数の講義科目ではなかなか困難であるが、定期的に課題（宿題）を課したり、予習が必要な小テストをするなど、時間外学習を実質化する試みを強化する必要があるだろう。

一方、比較的评价の高かった（3.35以上）のは質問5～8（時間厳守、学習目標の提示、質問への対応、学生への注意）で、担当教員の授業態度が好意的に評価されていると言える。担当教員の多くを占める非常勤講師の方々に感謝したい。

ただ、質問2（学習目標の理解）や質問12（問題意識や関心の深まり）の評価が低いのは問題である。シラバスに載せる、あるいは最初の授業で述べるだけでなく、絶えず授業内容を学習目標に関連づけて話すなどの工夫が必要であろう。

また、全質問の平均評価値が8グループ中最低で、質問別でも14問中の12問で7番目か8番目になっている。以前のアンケートでは、基礎・共通科目の評価は概ねグループ内の中位であった。カリキュラムやアンケートの内容、実施時期が異なるので単純な比較はできないが、今後の動向に注意する必要がある。

【資格関係科目】 やはり質問3に対する評価は14問中最も低い。質問5～7の評価が高いことも基礎・共通科目と同じである。質問8に対する評価はやや低いが、それでも8グループ中では2番目である。

基礎・共通科目と異なるのは質問1（出席状況）や2（学習目標の理解）に対する評価が比較的高いことである。この点は、資格というはっきりした目標に結びついている、必修科目が多い、といった科目の性格から容易に理解できる。資格と結びついた子ども発達学科や発達栄養学科で、これらの質問に対する評価が高いことも、それを裏付けている。また、質問11（理解のしやすさ）の評価が比較的低くなっているが、この点も子ども発達学科や発達栄養学科と共通である。これも、一定量の授業内容を是が非でも教えねばならないという資格関連科目の宿命と言えるかもしれない。

なお、資格関連科目の評価値は全般に高い。全質問の平均評価値は留学生科目（評価値が飛び抜けて高い）に次いで2番目であり、個々の質問でも14問中9問で2番目である。資格関連科目に関する以前の評価は、変動はあるものの平均すると中位であったので、上記の結果は基礎・共通科目とは逆の傾向であり、担当教員の努力に敬意を表したい。

2. 自由記述の特徴

自由記述欄は回答者全員が記入しているわけではないので、限られた回答から受講生全体の傾向を推し量るには無理があるが、幾つか特徴を拾い出してみよう。

全体を通して、「おもしろかった」、「興味深い」、「楽しかった」などの肯定的記述が目立ち、逆の評価はほとんどなかった。一方、授業のわかりやすさに関しては、「わかりやすい」という評価が多いが、外国語科目や理系科目を中心に「難しい」、「わからない」というコメントも散見される。外国語科目では同じクラスに両方のコメントが混在している場合もある。外国語科目では試験結果による能力別クラス編成を行っているが、まだ十分ではないということであろう。

また、一部の科目を除いて、「いろいろ詳しく知ることができた」といった漠然とした記述が多く、具体的に何を習得できたかについてのコメントが乏しい。学習成果に関する学生の自己評価をより詳細に知ることができる質問の仕方を工夫する必要がある。

質問1～14に含まれない内容で目に付くのが、担当教員に対する「やさしい」、「親しみやすい」、「親切」などの好意的コメントである。「基礎力調査」の結果にも見られた、教員との人間関係を求める傾向の反映かもしれない。

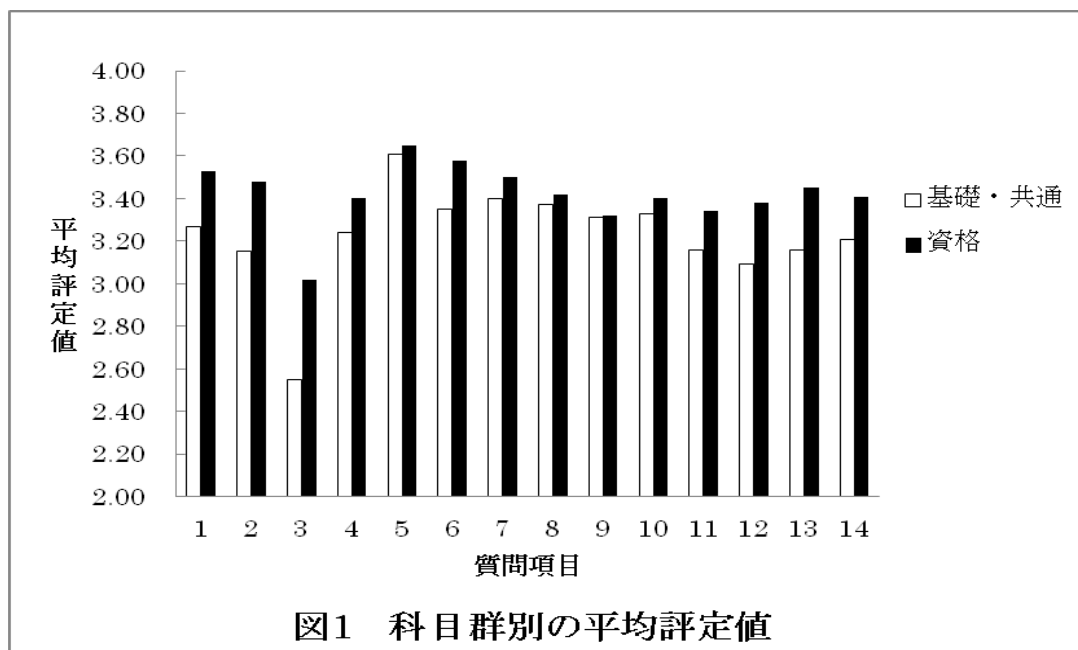


図1 科目群別の平均評定値

(文責 江草 浩幸)

授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

1. はじめに

今年度はこれまでの調査経験を踏まえアンケート質問項目を改定した。そのため過去の結果との比較はできない。ただし、今回の改定により授業に対する学生の満足度を分析することは、少しであるが改善された。とくに「レッスン等」の実習・演習系授業において、その実態が以前より見出されるようになった。ただし、今回の調査では、実技系レッスンの授業は調査対象から外した（実技系レッスンに対する調査は、後期に予定）。

注目すべき点は、過去 3 年間において、音楽学科と音楽マネジメント学科の調査結果における全体平均値のポイント差異は、大きく音楽学科に優位性があった。しかしながら、アンケート質問項目の差異はあるが、今年度における両学科のポイント差異は縮小され、音楽マネジメント学科に改善の傾向がみられるようになってきた。それらは表 1, 2 と図 1, 2 を参照されたい。

2. 考察

2-1 留意点

昨年同様に考察する際に次の点を留めておきたい。

- ①音楽学科と音楽マネジメント学科の差異は、早期専門教育を受けて入学した音楽学科学生と、それとは異なる音楽マネジメント学科学生が存在すること
- ②学習領域に対するビジョンは、音楽学科学生は音楽マネジメント学科学生より明確であること
- ③昨年度、音楽マネジメント学科では、学生から授業改善の要望があり、そのため、今年度は一部授業において授業内容の見直し、教員の交代があった

2-2 音楽学部の傾向と各学科の傾向

音楽学部全体の傾向として学生の授業に対する予習・復習の時間が、他学部より少ない点がみられる（表における問 3 を参照）。これは音楽学科学生の場合、音楽練習に学習の中心が傾倒していることと容易に推察できる。しかし、音楽マネジメント学科の場合、その要因は多岐に渡るであろう。以上が音楽学部全体において課題といえる点である。

この他に音楽マネジメント学科において注意しなければならない傾向があった。それは、次の 3 つの質問項目であり回答ポイントが低い数値であった。

問 1 あなたはこの授業に休まず出席しましたか

問 8 担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意を

していましたか
問 13 この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが
習得できましたか

2-3 満足度に影響する要因

前述した音楽マネジメント学科の注意すべき点に触れる前に、質問項目にある自由記述欄の回答傾向を参考したい。注目する点は、他学部や音楽学科の学生は自由記述への回答が多数みられるが、音楽マネジメント学科の学生は、回答が少ない状況である。各学科の回答傾向は以下である。

●音楽学科

授業への謝意（分かり易い授業・視野が広がった）
今後の学習意欲向上への言及
習得内容の言及
教授内容の難しさへの言及

●音楽マネジメント学科

習得内容への言及（視野が広がった）

以上が回答傾向である。音楽学科の傾向として演習系授業ではポジティブな回答が多く、座学系の授業には、授業が難しいといった内容の回答があった。一方、音楽マネジメント学科は非常勤講師による授業への回答しかみられなかった。本アンケート調査全体（音楽学部）の傾向と自由記述の回答傾向から考えられる状況を検証すると次のようなことが考えられる。

音楽学科学生は学習内容に対するビジョンが携わっているため、教授内容から得られる内容で、更なる向上を意識しているように思われる。

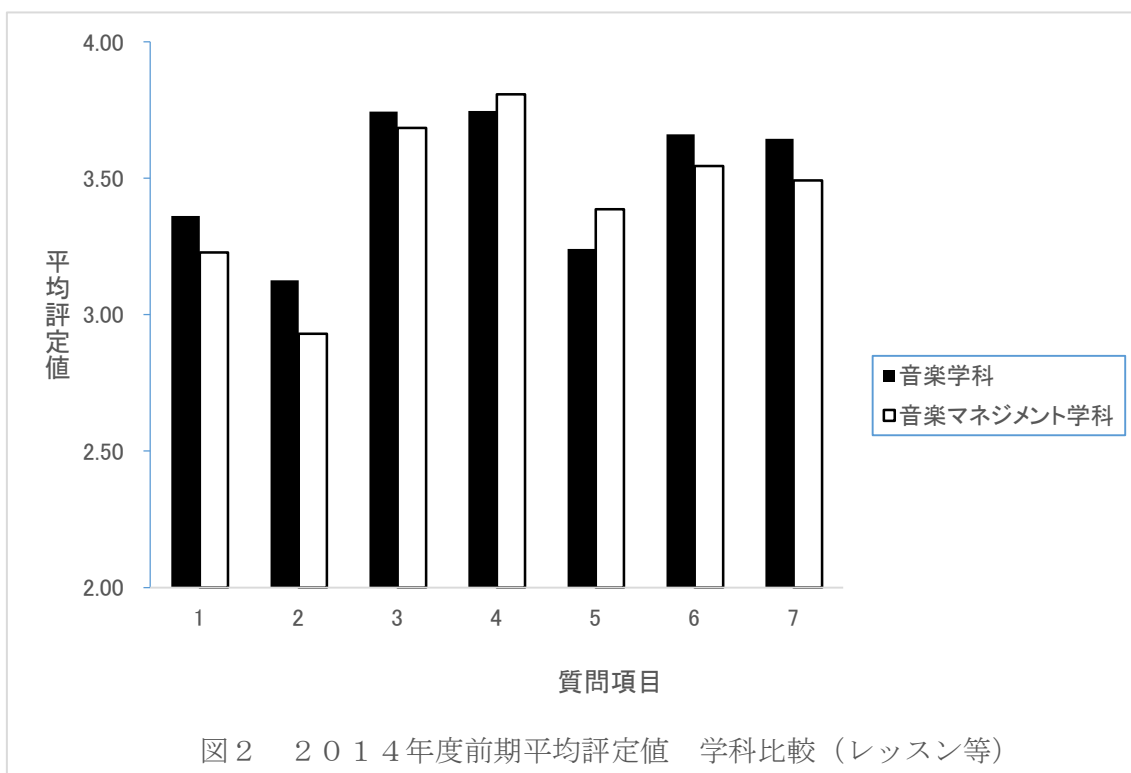
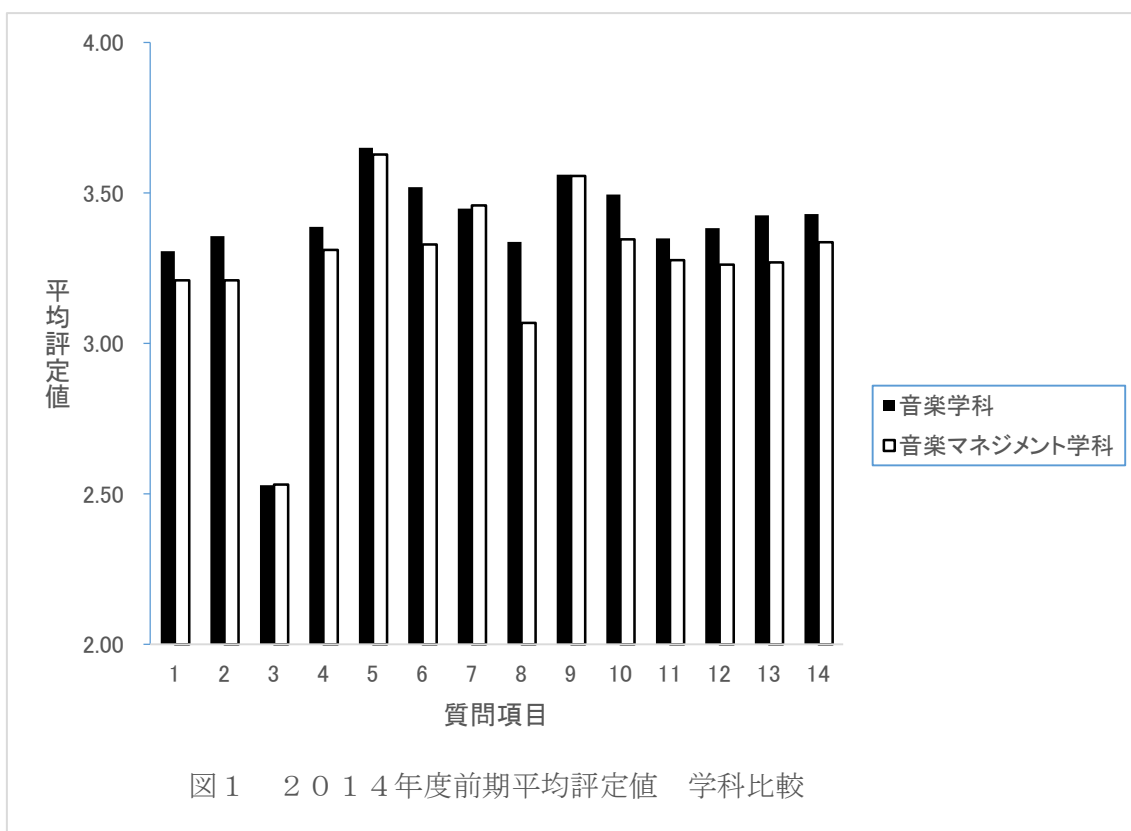
音楽マネジメント学科には、その傾向を見ることは難しい。僅かな自由記述への回答は4回生からであり、ようやく専門的な領域の授業内容を迎えることができ、回答すべき点があったのであろう。これらの要因はカリキュラム設計にも一因があると考えられる。また、授業への出席率が低いのも授業への期待が薄いからともいえる。さらに、問 8、問 13 に対する数値が低いことも授業内容、教授姿勢を見直す必要があるだろう。ただし、今年度 7 月の段階で、質問項目は違うものの前年度調査結果より改善と見受けられる数値向上もみられる。よって、引き続き改善の努力を強く進める必要がある。

表1 授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

| | | 音楽学科 | 音楽マネジメント学科 |
|-----|--|------|------------|
| 問1 | あなたはこの授業に休まず出席しましたか | 3.31 | 3.21 |
| 問2 | あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか | 3.36 | 3.21 |
| 問3 | あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか | 2.53 | 2.53 |
| 問4 | 担当教員の話し方はわかりやすかったですか | 3.39 | 3.31 |
| 問5 | 担当教員は授業時間を守っていましたか | 3.65 | 3.63 |
| 問6 | 担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか | 3.52 | 3.33 |
| 問7 | 担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか | 3.45 | 3.46 |
| 問8 | 担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか | 3.34 | 3.07 |
| 問9 | 板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか | 3.56 | 3.56 |
| 問10 | この授業の内容の量やスピードは適切でしたか | 3.49 | 3.35 |
| 問11 | この授業の内容は理解しやすかったですか | 3.35 | 3.28 |
| 問12 | この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか | 3.38 | 3.26 |
| 問13 | この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか | 3.43 | 3.27 |
| 問14 | この授業を受講して満足できましたか | 3.43 | 3.34 |
| 平均値 | | 3.37 | 3.27 |

表2 授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧（レッスン）

| | | 音楽学科 | 音楽マネジメント学科 |
|-----|------------------------------------|------|------------|
| 問1 | あなたは休まず出席しましたか | 3.36 | 3.23 |
| 問2 | あなたは授業（レッスン等）の準備（譜読み・練習等）を十分にしましたか | 3.13 | 2.93 |
| 問3 | 教員は授業回数（補講を含む）や時間をきちんと守っていましたか | 3.74 | 3.68 |
| 問4 | 教員の指導は技術や理解度に合わせて適切な話し方でしたか | 3.75 | 3.81 |
| 問5 | あなたは授業（レッスン等）で教員に質問や疑問をよく尋ねましたか | 3.24 | 3.39 |
| 問6 | 授業（レッスン等）の課題教材はあなたにとって適切でしたか | 3.66 | 3.54 |
| 問7 | あなたはこの授業（レッスン等）で意欲が向上しましたか | 3.64 | 3.49 |
| 平均値 | | 3.50 | 3.44 |



(文責 砂田 和道)

授業アンケート結果の分析（人文学部）

1. 総評

学生から教員の授業にたいする評価について、特段の問題点は見当たらず、概ね良好な結果が出ている。

2. 具体的な検討項目

ただ、個別具体的な検討項目として、つぎの諸点が今後の課題として挙げられる。

- 1) 質問3「あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか」について、評価点は全体的に低い。特に実技、演習を除く一般科目について、ほとんど手つかずの実態が読み取れる。
- 2) 実技、演習系の科目、少人数クラスの評価点は総じて高い。
- 3) 概論、いわゆる講義科目の評価点は全体的に下がる。
- 4) 科目によっては、基礎学力の不足から授業の理解が難しくなっていると推察される。

3. 課題と今後の取り組み

基礎的、基本的な学力の育成が課題として浮き彫りになっているように思われる。大学に望まれる学力の維持を考慮すれば、基本的な知識等の習得を学生に課する教育上の工夫が一層必要になるう。

